

E-03

仮想空間に再現した街で感じる、 コネクテッドカーの可能性

着目した世の中の課題

EV/自動運転技術の進化により、CO₂排出量や交通事故の削減が進んでいますが、急ブレーキや交通渋滞によるエネルギー浪費、バッテリーに含まれるレアメタルの採掘やリサイクルにかかる環境負荷、非稼働車両による土地の無駄遣いといった、個々の車両では解決できない課題があります。

解決となる取組み

概要

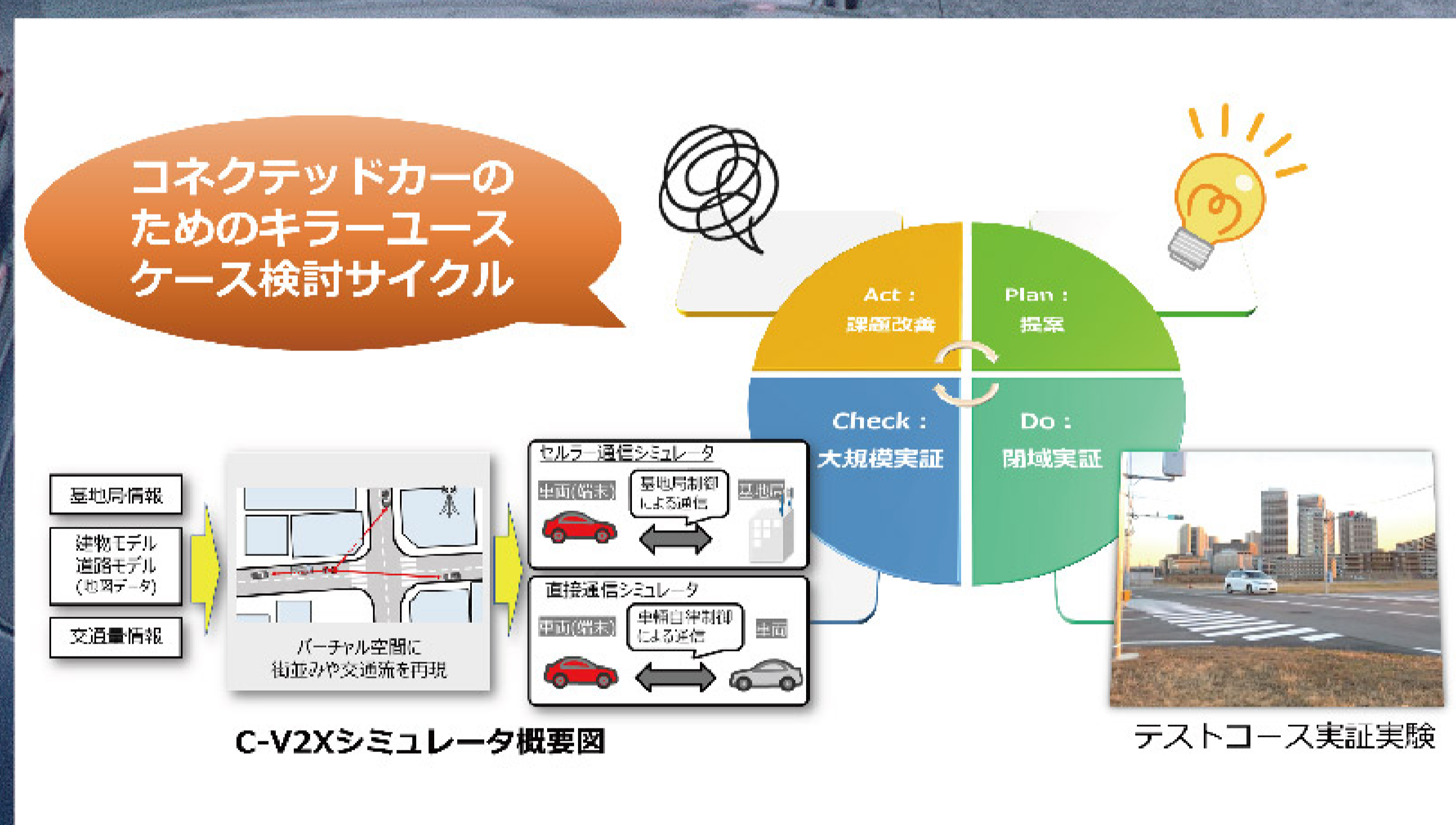
課題解決には車両の全体最適が必要であり、コネクテッドカーやスマートポールなどで取得したセンサ情報などを一括管理するCPS(Cyber-Physical System)の検討が世界各国で進められています。しかしながら、コネクテッドカーの普及が進んでいないため、ドコモではキラーユースケース創出に取り組んでいます。

取組みを支える技術

ユースケース創出には大規模実証が必要ですが、頻繁に実施することは困難であるため、実世界を仮想空間に再現し、高速で移動する数百台の車両のセルラー通信に加えて相互位置関係が時々刻々と変化する車両間直接通信の通信品質評価を可能とするC-V2Xシミュレータを開発しました。



EV/自動運転の先のカブニューには
Cyber-Physical Systemの実現!



大規模実証なしにユースケース検討を可能とすることで、
従来の自動車業界だけでなく、
さまざまな分野からのあんしん・安全とは違った
新たな視点のユースケースが創出され、
コネクテッドカーの普及につながることが期待できます。

新たなユースケースが移動時間の概念を変えることを期待します。